



新HP

「準備8割」

校長 菅谷和孝

2月は暦上、立春を迎え、冬から春へと徐々に気候が変わっていく時期であります。生徒においても、3年生はその春に向けての準備(受験)期間であり、義務教育最後の集大成として、今まさに必死に努力をしている真っ只中です。今月末には公立入試があります。「準備8割 本番2割」とか「段取り8分 仕事2分」ともよく言われますが、体調を整え、全力を出し切って勝負ができることを願っています。また、日本のプロ野球やメジャーリーグで活躍し、先日、日米ともに野球の殿堂入りしたイチロー選手も、準備について以下のように語っています。

<イチロー選手の準備とは>

「準備というのは言い訳の材料となる得るものを排除していくこと。そのために考え得るすべてのことをなくしていくこと。」

「考え得る」これは創造(想像)する力がとても重要だと思います。新しいこと、初めてのことは誰でも不安です。ましてや、誰もが行っていないことを実現するにおいては、計画段階の時点で変人扱いされることもあります。しかし、自分がイメージしていることが明確に分かっていれば、自分を信じること(自信)にもつながると思います。それが相手に伝われば応援(支援)してくれる材料にもなります。

日本には今、全国当たり前のようにあるマクドナルドという企業があります。先日、本校の学区内にもオープンしましたが、日本マクドナルドの創業者「藤田田(ふじたでん)」さんは、本家創業者(レイ A クロック)に日本の経営権(ライセンス)を得るため、様々なアイデアや自分の思いを伝え、まったく首を縦に振らなかった創業者が、「今までたくさんの日本人が訪ねてきた。しかし、マクドナルドのビジネスを任せようと思ったのはフジタ、君が初めてだ」とまで言わせた方です。その藤田さんが成功するイメージを持っていたからこそ、信念の上、実現し続けるまでやり抜いたからこそ、現在のハンバーガービジネス繁栄につながったのだと思います。また、日本で初めてフランチャイズのコンビニエンスストアとして開業したセブンイレブン。アメリカで成功していた7-elevenのライセンスを日本に得ようと、当時イトーヨーカ堂の鈴木敏文さん(後の社長)が、当時のイトーヨーカ堂社長の反対を押し切り、鈴木さんを中心としたプロジェクトチームが、いくつもの逆境を乗り越え、日本独自の方法で現在のシステムまで事業を拡大させていったのも同じだと思っています。さらには、セブンイレブンの場合、日本のノウハウをアメリカに逆輸入するくらいにまで成長させた逸話であります。

他にも多くの逸話がありますが、このように創造(想像)力から生まれてくる準備をどれだけするか。他者が反対しても、責任を自分でとる覚悟と信念を持てるか。そして、その思いに賛同して、共に戦ってくれる仲間たちの存在があるからこそ、新たな道を切り拓き、前に進む力へとなるのだと思います。

先日、1年生は「スキー教室」、2年生は「修学旅行」と、生徒が主体的に活動し、泊を伴った大きな行事を無事に終えることができました。1年生は中学校生活で初めての集団宿泊学習ですが、集団や班で行動する上での大切なことや、スキーというスポーツを通じて新たな体験ができたことと思います。また、2年生の修学旅行では、日本の歴史・文化に触れながら、事前に学習した内容を目の当たりにし、教科書やネット上の画面では感じられない経験ができたことと思います。さらには、最終日には嵐山での雪化粧も見ることができ、狙ってもなかなか体験ができない経験を得ることができました。何れにしても、実りある体験にするには準備が大切で、「宿泊学習に行かされる」のではなく、「宿泊学習に行ってくる」という前向きな意識が、その後の学校生活にも大きく変わってくると思います。「チャンスは与えられるものではなく掴むもの」。人生いつ本番になっても挑戦できるように、そための準備ができる力を育てていきたいと思っています。

(参考)日本マクドナルド HP、NHKプロジェクトX「日米逆転! コンビニを作った素人たち」より

